



空き巣被害が多発しています。外出時は戸締りを厳重に。
不審者・不審車両を見かけたら警察に連絡を。

「くるくるバス」運行5周年記念式典(1/23)報告



運行5周年記念式典は平成22年1月23日(土)午前10時から住吉台東住宅集会所で行われました。司会は、住吉台居住歴24年、毎日エクセル東からバスを利用されている西尾洋子さんが務めてくださいました。

開会の挨拶は居住歴36年、「くるくるバスを守る会」代表世話人の新免信一さん。「くるくるバスは優等



生として成長し、明るく楽しいバスとしての評価をいただいている。利用者のマナーが非常に良く、声を掛け合うことがバス運転手のマナーの向上にも相乗的につながっている。これもひとえに皆さんの力であることに感謝したい。バスは傾斜の多いまち、交通が不便で難渋しているまちから住吉台を解放してくれた。今後も永続的な運行への環境づくりを「守る会」として続けていきたい」

This is くるくるバス!



森栗茂一先生は開口一番、「守る会」が続いていること自体が驚異と。運行前をふり返って「NPO法人CS神戸中村順子さん、そして当時神戸市役所企画調整局におられ役所の壁を突破して一生懸命動いてくれた小林伸一さん(現神戸市危機管理室)、そして地域住民のリーダーを中心に住民の熱心な動きがあり物事が進んでいっ

た。この動きをきちんと支えてくれたのが東灘区役所。役所の役割はお金を出すことではなく、住民組織を支えて一緒に考えていくこと、一緒に考える場を提供することである。役所も事業者も住民もみんなで一緒にやったことは続いていく。みんなのものになる。そして暮らし方が変わる。5年前の住吉台には道路の両側に路上駐車車が停まっていたけれど、みんなの力でこんなにかっこいいまちになったじゃないですか。最初に井戸を掘った人の努力も大事だが、後から加わった人も大事、とにかくみんなで一緒にやっていくことが大切。これは単に交通の話に終わらず、地域づくりに通じるものがある。コミュニケーションがとれるまち、声を掛け合うまち、補助金がなくても自分たちでやる、自分たちの公共は自分たちで作る、役所はそれなりに支援する—これこそがこれからの社会の在り方だ」と話されました。

東灘区役所は昭和25年寅年生まれ

続いて片岡利治東灘区長のご祝辞、「本日はおめでとうございます。住吉台造成以来約40年、交通手段については住民の皆さんからずっと要望があつてようやく実現され、区役所としても感謝申し上げたい。東灘区役所は今年還暦を迎える。現在、東灘区の人口は昭和25年当時に比べ約3倍の20万9000人、高齢化率は19%と割合低いが、神戸市は22%、住吉台は30%を超えている。時代と共にまちは様変わりして、公共施設や住宅のバリアフリー化など住民の要望自体が変わってきた。役所は様々な情



報を地域の皆さんと共有し、一緒にまちづくりを進め、今後も精一杯支援を続けていきたい」と心強いご挨拶をいただきました。

地域福祉センターでお会いしましょう！

渦が森ふれあいのまちづくり協議会委員長大垣武志さんは「傾斜が厳しく、高齢化が進む中であって、バスが住吉台住民の足として重宝されていることを喜び、また多くの問題を乗り越えられて 5 周年を迎えられたことにお祝いを申し上げたい」と。ふれまち協議会の活動内容のご紹介とともに、住吉台から渦森台まで少し距離はありますが、協議会の活動拠点である地域福祉センターでの催しにも積極的に参加するよう勧められました。元気で明るい住民活動の交流の輪が広がることを期待されています。



ご列席の神戸市関係の方々、神戸大学富田安夫先生の紹介があり、神戸市長からの祝電が披露されました。

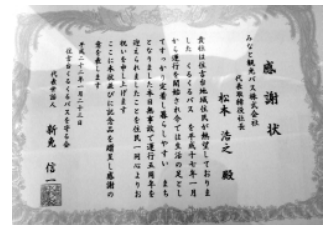
地域に寄り添う企業でありたい

みなと観光バス(株)松本浩之社長は運行状況や今後の方針を含めて挨拶されました。「早 5 年経ち、この場に立たせていただいていることに感謝申し上げたい。当初、都市再生モデル事業に協力してくれないかと話があった時、正直「えっ？」と思った。その後「守る会」初代代表世話人の永原隆憲さんを中心とした地元の皆さんにお会いし、森栗先生が意見調整をされ「くるくるバス」の骨格を作られ、同時に神戸市の行政マンにがんばっていただいて現在が

ある。厳しい経済環境にありながら、平成 22 年 1 月度実績は 99.86% (前年対比)、きわめて優秀な乗車率を誇っている。他のバス会社、地方自治体、行政は、“なぜ住民の皆さんがここまで一致団結してバスを支えようとされているのか、何を必要とされて何を求められているのか、その結果としてどのような便益を享受されているのか”、これらのことに興味を持ち関心を示している。行政に任せっぱなしにせず自分たちのことは自分たちで考え、問題提起して、解決するためにみんなで進めていく—このような地域の皆さんの力がある限り、みなと観光も発展させていただけると心強く思っている。安全運行を第一に、より一層地域の路線バスの充実を図り、地域のコミュニティーの場としてバスを提供して、1 日を気持ちよく過ごして



いただきたいと考えている。乗務員も皆「くるくるバス」を走らせて頂けることに誇りを持っており、会社にとっても重要な路線。今後もあたたかいご支援ご指導を賜りたい」。最後に、みなと観光バスに感謝状および記念品を贈呈しました。5 年間本当にありがとうございました。これからもよろしく願いいたします。



長生きの秘訣 教えます！ —講演『笑って長生きせなソンよ！』—



ラジオ関西パーソナリティー谷五郎さんの登場で会場は一転、笑いさざめく場に。阪神大震災で被災した長田のまちの話に始まり、ご自身の職歴、嫁姑バトル、親の介護や臨終、健康法まで興味深い話に時間が経つのを忘れませんでした。ツボにはまったのが家庭円満三原則シリーズ。愛の三原則「ありがとう・ごめんなさい・愛してる」、浮気否定の三原則「しない・してない・する気もない」、夫婦をうるおす三原則「しゃべる・食べる・ふれる」、とりわけ非勝三原則「勝てない・勝たない・勝ちたくない」は秀逸でした。家庭内ストレス(!)に対処するには三原則を心掛けること、これが一番かもしれません。長生きに笑いやユーモアは欠かせません。ウォーキングで身体を鍛え、ラジオを聞くことで脳トレーニング。笑いやユーモアのある生活を心がけ、楽観的な物の見方で共に長生きいたしましょう♪

編集後記：式典受付を手伝って下さったみなと観光社員の方、横田奈都子さん、演壇や音響機器を運んで下さった区役所岩見敏充さん、ありがとうございました。「守る会」第 1 期メンバーの村井傑さん、柿原蒨さん、お顔を拝見できてなつかしく思いました。「まちづくりの最終目的はまちに住んでいる人が幸せになること。イベント頼みで外からたくさんの人に来てもらっても意味がないんじゃないか」(谷五郎) まちづくりは人と人の出会いから始まる。名前や顔を覚えて、声を掛け合うところから。次号は 5 月発行。U.N

